

# 扶養控除変更による住民税の税額負担比較モデルケース

(例) 夫の給与収入(年間)が600万円で、妻(収入無)・子①(平成4年生まれ)・子②(平成6年生まれ)・子③(平成11年生まれ)の3人の子供がいる世帯で、社会保険支払額(年間)が20万円の場

	平成23年度 (単位:円)		平成24年度 (単位:円)
給与収入	6,000,000		6,000,000
①給与所得	4,260,000		4,260,000
社会保険料控除	200,000		200,000
配偶者控除	330,000		330,000
扶養控除	(子①) 450,000	<b>特定扶養控除 上乗せ部分 12万円廃止</b>	(子①) 450,000
	(子②) 450,000		(子②) <b>330,000</b>
	(子③) 330,000		(子③) <b>0</b>
	(合計) 1,230,000		(合計) 780,000
基礎控除	330,000		330,000
②合計所得控除	2,090,000		1,640,000
③課税所得金額 (①-②)	2,170,000		2,620,000
			<b>一般扶養控除 33万円廃止</b>

	平成23年度		平成24年度	
	市民税 (単位:円)	県民税 (単位:円)	市民税 (単位:円)	県民税 (単位:円)
④所得割	130,200 ③×6%	86,800 ③×4%	157,200 ③×6%	104,800 ③×4%
⑤調整控除	1,500	1,000	1,500	1,000
⑥差引所得割 (④-⑤)	128,700	85,800	155,700	103,800
⑦均等割	3,000	1,500	3,000	1,500
住民税合計 (⑥+⑦)	131,700	87,300	158,700	105,300
総合計	<b>219,000</b>		<b>264,000</b>	

45,000円の負担増